



東海市で災害救護協定締結

10月31日(水)、本会と東海市とが市役所2階の市長応接室にて、災害時の柔道整復師救護活動に関する協定書を取り交わした。

締結式(調印式)は、鈴木淳雄市長、加藤章宏総務部長、山内政信健康福祉監、本会から森川伸治会長、小林弘治事業部長、松田吉弘支部長、佐野恵東海市会員代表が出席し執り行われた。

今後、地震などの大規模災害時に、市の要請に応じて市内6カ所の救護所に会員を派遣、医療救護所の医師の管理のもとで活動することとなる。

式後、東海市はカゴメ創業の地であるため、鈴木市長を囲みトマトジュースで乾杯。これまでの本会の防災活動内容や世間話に花が咲き終了。

これで半田支部内では、大府市・知多市・半田市に続き4市目の協定締結となった。

一半田支部3市で防災訓練に参加

11月18日(日)半田支部内3市で防災訓練が行われた。半田市は2回目、知多市と東海市は初参加である。

いずれの会場でも会員がエコノミークラス症候群の予防体操を市民にレクチャー、実践指導した。

3市の3会場ともとも市民の反応がよく、打てば響くかのようにこちらの声に呼応して元気に参加してくれ、我々も気持ちよく活動できた。どの会場からも総評にて好評をいただき嬉しい限りであった。それと同時に今後の災害時における活動と大きな役割を担う責任があることを知る貴重な一日となった。

(支部広報 室谷 勉)

●半田市 成岩小学校体育館にて、支部会員4名が市民約80人に実施。閉会式のあとは、婦人部と自衛隊の方々によるそれぞれの炊き出しのおにぎりと豚汁で昼食を頂いた。



●知多市 つつじヶ丘小学校グランドにて、石川事業部員ほか支部会員7名で参加。準備されたテントの半分を割り当てられたため、一度に7人ほどしか入れなかつた。しかし会員は他のブースを見学している市民に声を掛けて参加を促し、56人の市民に実践指導できた。



●東海市 10月31日の協定締結を受け、大田小学校で行われた訓練に、事業部の小林部長・河合部員とともに支部会員4人が早速参加した。

まずはグランドにて、医師団の指導のもと、傷病者の救護や搬送といった実践ながらの緊張感ある訓練を行い、その後体育館にてエコノミークラス症候群予防体操を市民50人ほど前の前で実施指導した。



Welcome!!

新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
加藤元樹	S58.12.2	岡崎	中和医療	初段	登山



柳田前副会長、旭日章光章受章!

本会の推薦により、平成30年秋の叙勲において柳田松三前副会長(75歳)が旭日章光章を受賞した。

柳田前副会長は11月6日(火)、愛知県庁2階講堂で執り行われた叙勲・褒章伝達式に出席。翌7日には皇居において行われた今上天皇最後の拝謁にも出席してその記念的栄誉に浴した。

柳田前副会長は30歳のとき証券会社を退職し中部柔整専門学校に入学。夫婦で別の接骨院を開業したが、1986年からは共に接骨院を営んできた。

2003年~14年まで本会の副会長職を務め、県内の防災訓練やスポーツ大会に積極的に会員を派遣し柔道整復師の認知度を高めた。また2012年4月に認可された本会の公益法人化にも、担当副会長として力を尽くした。



祝

(公社)日本柔道整復師会第53回学術大会静岡大会

11月11日(日)午前9時45分より、ウインクあいちにて、公益社団法人日本柔道整復師会第53回東海学術大会静岡大会が開催され、本会から147名の会員が参加した。

開会式終了後、A会場(大ホール)にて8題の会員研究発表があり、本会から大塚隆盛会員(岡崎)が「アキレス腱断裂保存療法」と題して、新鮮アキレス腱断裂に対して、組織学的修復過程を考慮しつつ、キャストと安価な自製装具を用いて施行した保存療法をBモード超音波画像(BUS)観察所見と併せて発表した。

大塚会員 12時45分からは基調講演として、工藤鉄男日整会長が「次世代へのバトン」と題して講演。14時からは特別講演「疼痛メカニズムから考える運動器疾患に対する保存療法」と題して、国立浜松医科大学付属病院 病院教授 星野裕信先生にご講演いただいた。

B会場(小ホール)では正午から午後1時まで、日整セミナーとして、「柔道整復師と地域包括ケアシステム-2018 柔道整復師と介護予防」と題して、日整川口貴弘理事による講習会が行われ、本会からは87人が聴講。その後同じ会場で4題の学生研究発表が行われた。

全発表・講演後、発表者の表彰が行われ午時4時終了となった。

接骨医学会学術大会 17年ぶりの愛知開催



11月17日(土)・18日(日)の2日間、ウインクあいちで第27回日本柔道整復接骨医学会学術大会が、全国からのべ2,042名が参加して開催された。ウインクあいちの前身である県中小企業センターで2001年に開催されて以来、17年ぶりとなる地元開催である。

「佛手仏心」-柔道整復師が患者様のためにできること-を大会テーマに、特別講演をはじめ、シンポジウムや実践スポーツセミナー・教育研修セミナー、8分科会による各フォーラム、そして167題の一般口頭発表と45題のポスター発表が、2階・5階・6階の3フロア6会場にて同時進行で行われた。

17日は、山岸裕幸会員(熱田)が「外傷歴を有する不安定な足関節に対する伸縮ベルトと短腓骨筋の関係」、三谷 誉会員(一宮)が「介護予防・日常生活支援総合事業への参画について」と題して発表。シンポジウムでは佐藤隆史会員(中村)が、「外傷に対する技術の伝承-整形外科勤務の立場より」と題して発表した。ほか、齋藤哲也会員(中村)、加藤稔啓会員(大曾根)、観 芳幸学術部長が座長を務めた。

18日(日)は、「仏の心」と「柔(道)の心」に共通するもの-柔道はなぜ柔道整復師に欠かせないのか-と題して、米田 實先生の特別講演が行われた。整復治療手技固定分科会フォーラムでは、齋藤哲也会員が「橈骨遠位端骨折(Colles骨折)の治療法-米田流整復術、固定法-」、高須周平会員(刈谷)が「コラーゼス骨折の整復法-骨の動きのイメージと整復手技の原理-」と題し発表。また大口明良学術部員と富田重光会員(中村)が座長を務めるなど、多くの本会会員が開催に寄与した。